



尾形的

1都1道2府43県〇一期一景

第十八章

本当に見たかったもの

photo: Masashige Ogata, writing & layout: Misao Ogata



以前、夫とよく仕事をしていた仲間に山口県出身の人がいた。夫が、その彼と酒を飲んだ時、故郷・山口の話、それも岩国の「錦帯橋」の話で盛り上がったことがあった。

夕べ突然、夫はそのことを思い出したらしい。「錦帯橋」という、テレビ画面の中でしか見たことのない橋に引き寄せられ、翌朝、まだ日も昇らぬうちに岩国へと向かったのだ。自宅から約894km、実に12時間という道のりを、ひたすら車を走らせた。そんな甲斐もあってか、フロントガラス越しに見えた錦帯橋は、何とも言えない威厳をたたえていて、あの美しい弧が連なる橋を渡ってみたいとソワソワする

ほどだった。

ところが、駐車場を探している間に、夫の興味がもう別のものへと移っていたから、ついて来た私は驚いた。夫は、少年たちが野球をしている駐車場脇のグラウンドへと、カメラ片手に近づいていく。それは、都内の多摩川や荒川の土手だって、いや、下手をすれば休日の小学校の校庭なんかでも見られる光景。わざわざ錦帯橋と目と鼻の先までやってきて、誘われてしまうほど珍しいものではないはず。

…と、ここでハタと気づいた。ありふれた光景なのになんだか懐かしい気がする。これって、いつも見ているようでいて、実

は忙しい日常に追われ、最近はずっかり見落としていた光景なのかも…?と。「そこに行かなくちゃ見られない錦帯橋」に背を向けて、少年たちの野球にレンズを向ける夫を、不思議な気分で眺めた。

Profile

尾形正茂 株式会社シェルパの代表であり、カメラマンとして広告や雑誌の他、CDジャケットやグラビアなどに携わり日々格闘中。

尾形 操 平成17年よりフリーとして独立。現在はMacによる広告などのレイアウト・デザインに携わり日々格闘中。

シェルパホームページ

▶ <http://www.sherpa-jp.com>